

〈令和7年度 全国学力学習状況調査について〉

児童の学力や学習状況の実態把握及び教育指導の改善を目的として、今年度4月に全国学力学習状況調査を6年生にて実施いたしました。今年度は国語・算数・理科の調査を行い、結果・分析がまとまりましたので、御報告いたします。

【国語】

- 全体として全国平均を下回っている。
- 「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均に近く、日頃の積み重ねが感じられる。
- 知識及び技能に関しては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等に関しては、「書くこと」に課題が見られる。
- 漢字の正答率が低い。
- 記述式での問題の正答率が下がり、無回答率も高く、児童が問題に向き合う前に諦めてしまっている様子が見られる。また、設問に対して不十分な記述の割合が多く、設問の文意を理解できていない可能性がある。

【算数】

- 全体として全国平均を下回っている。
- 基礎基本の計算はできており、学習タイムや日頃の授業の成果が見受けられる。
- 「図形」「変化と関係」「データの活用」に課題がある。どの項目に関しても知識及び技能、思考力・判断力・表現力等どちらにも課題が見られる。
- グラフや表の読み取りに課題が見られる。
- 図形や分数、割合や角、数値等の基本的な概念や本質を理解できていない様子が見られる。
- 記述式での問題の正答率が下がる。また、全体的に無回答率も高く、問題に向き合う前に諦めてしまっている様子が見られる。

【理科】

- 全体として全国平均を大きく下回っている。
- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」、どの項目においても課題が見られる。また、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等どちらにも課題が見られる。
- 自分で問いを見出したり、学習を生かして考えたりすることに課題が見られる。
- 理科に関する用語やその意味、本質についての理解が不十分な様子が見られる。

【児童質問紙】

- 1人1台端末を有効的に活用できている。
- 読書を好む児童が多く、習慣化されている。
- 「学習習慣」に課題が見られる。
- 「自己有用感」の低い児童が多い。
- 課題解決のために自分から考え取り組んだり、学び方を調整・工夫したり、学んだことを生かそうとしたりする児童が少ない。

【まとめ】

- ①国語、算数とも全国平均を下回る項目が多く、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等へとつなげていく必要があると考えられる。
- ②問題文が長くなると、問題把握を正確にできていないということが考えられる。
- ③記述式での問題の正答率が下がる。また、全体的に無回答率も高く、問題に向き合う前に諦めてしまっている様子がうかがえる。
- ④学習サイクルが十分に身に付いていない。

【学力向上への手立て】

○基礎基本の定着、知識及び技能の向上

- ・学習タイムの時間を生かし、基礎基本を身に付けます。（言葉の使い方・漢字・計算力）
- ・児童が集中して学習に取り組むことのできるよう学習環境を整備します。
- ・学習支援を丁寧に行います。
- ・読書の時間を確保し、様々なジャンルの本に触れられるようにします。

○「書く」力の向上

- ・「書く」学習の目標の系統性を意識して授業を行います。
- ・授業の中で児童が「書きたい」と思わせる仕掛け作りをしていきます。
- ・書き方の例を示し、低学年から書く経験を積み重ねます。（例文、書き方の型を示す）
- ・書く量のノルマを定め、頑張っている児童を育成します。
- ・自分の言葉で思いを書いて表現する場を教育活動全体で設定します。
- ・書く内容（問題等）を正確に把握させ、的確な内容で表現できるようにします。
- ・習った漢字は作文の中で活用できるようにしていきます。

○学習サイクル、学び方の習得

- ・学習サイクル（PDCA サイクル）を推進し、児童に学び方を教えていきます。
（自分でまとめを書く。わからないことは自分で調べる。学習を振り返る。思考する時間を確保する。）
- ・授業の中で児童が自分で考える、調べる時間を確保します。（問題としっかりと向き合う）

○学習習慣の向上

- ・児童に学び方を学ばせ、家庭学習に生かせるようにします。
- ・児童の実態を授業参観や面談を通して学校と家庭で共有していきます。
- ・「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭学習のやり方を周知していきます。

今回の結果をよりよい教育活動へと生かしてまいります。また、家庭学習と学校教育の連携をさらに深めていきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力のほど、よろしくお願い致します。